

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針	
		評価指標と活動計画	評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見		
リーディングハイスクール事業の推進① 中高一貫教育の推進	(全校レベル) 中高一貫教育校のメリットを最大限に活かし、本校の活性化に役立てる。	評価指標 ○「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が80%以上。 ○「前期生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒が65%以上。 ○「中高合同のPTA活動は活発である」と答えた保護者が80%以上。	評価指標による達成度 ○「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒89%(+4p)・保護者92%(-1p)。 ○「前期生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒70%(+9p)。 ○「中高合同のPTA活動は活発である」と答えた保護者が75%(-6p)。	総合評価 (評定) <b>B</b>  (所見) コロナ禍の影響を受け、教育活動全般に大きく制約があったものの、開催方法等を工夫するなど、状況に応じてできることを考え、可能な限り実施した。そのため、学校生活や教育活動全般に対する満足度については、生徒・保護者ともに評価指標を上回り、生徒に関しては昨年度より4ポイント向上した。 前期生と高校生の良好な関係の構築に関しても、昨年度より9ポイント向上し、評価指標を達成することができた。中等教育学校の開校が、生徒の意識高揚と積極的な行動を促したと考える。 次年度は後期課程もスタートする。前期生と後期生・高校生がより一層交流を図り、学校全体の活性化に繋げていくことができるよう、全教職員の協働体制をより確かなものにしていかなければならない。	コロナ禍にもかかわらず、中高職員合同の会議を31回開催し、生徒の学校生活に関する満足度も高い。中等教育学校への完全移行に向け、中高一貫教育の一層の推進が図れている。 中等教育学校と高校が併設されている状況で、生徒たちが違和感を覚えることなく、良好な関係を保っていることは素晴らしい。 学校行事などで中高の縦割りグループを作って活動すると、他学年から刺激やいい影響を受けることもあるのではないかと。	①状況に応じつつ、前期課程、後期課程・高校合同の行事・作業・部活動・その他交流を行う機会を、積極的に創設する。  ②全ての教職員が、同じ中等教育学校の同僚・仲間であるという意識をしっかりと抱き、育成すべき生徒像の実現に向けて、これまで以上に緊密に連携を図るための組織づくりを行う。
	(下位組織レベル) 前期生と高校生の良好な関係構築。中高教職員の緊密な連携による組織の活性化。中高が連携したPTA活動の充実。	活動計画 ①中高職員合同の会議を年24回以上、PTA役員会を年4回以上開催する。  ②中高合同の行事・作業・部活動・交流を行う機会を積極的に創設する。  ③中等教育学校への完全移行に向けて、計画・準備を進める。	活動計画の実施状況 ①中高職員合同の会議を31回(運営委員会13回、中等教育学校移行検討会3回、人権教育研修会・コンプライアンス研修会など職員会議15回)、合同のPTA役員会を4回開催し、共通理解を図った。  ②コロナ禍ではあったが、開催方法を工夫して、学校祭、予餞会、防災訓練、人権映画会、総合学習発表会などを中高合同で実施するとともに、音楽部やバスケットボール部など多くの部で合同練習を行った。  ③教科会と分掌の課会を各2回、全体会を2回開催し、「中等教育学校推進に向けた準備計画」の本年度まどめを完成させた。			
リーディングハイスクール事業の推進② 確かな学力と進路観の育成	(全校レベル) 授業の充実改善に積極的に取り組み、全生徒の進路希望実現を目指す。	評価指標 ○「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○「教員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が90%以上。 ○「生徒の希望を尊重したきめ細やかな進路指導ができています」と答えた生徒・保護者が85%以上。 ○「教員は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒・保護者が85%以上。	評価指標による達成度 ○「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒92%(+3p)・保護者89%(+2p)・教職員94%(-4p)。 ○「教員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が96%(-2p)。 ○「生徒の希望を尊重したきめ細やかな進路指導ができています」と答えた生徒87%(+3p)・保護者84%(-2p)。  ○「教員は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒88%(±0p)・保護者86%(+1p)。	総合評価 (評定) <b>A</b>  (所見) すべての教職員の熱心な取り組みにより、保護者の1指標以外は目標を達成することができた。達成できなかった指標も-1Pであり、次年度にはすべての指標で達成できるようにしたい。客観的に授業を振り返り、わかる授業、学力を伸ばす教育を目指して、さらに授業改善に取り組むとともに、生徒・保護者との意思疎通を深めることが求められる。 学年集会、進路講演会などは実施が危惧されたものの、概ね計画通り実施することができた。また、生徒の反応は概ね良好であった。講演会の満足度は、講師の選定が最も大きな要素であると思われる。今後も情報収集に努め、各学年の要望に合致した講師を探すことが求められる。 学習実態調査と進路希望調査については、コロナ禍による自宅待機期間があり、年度初めは予定を大きく組み替えなければならなかったが、2学期以降は予定通り実施できた。実施だけに留まらないよう、結果の検証や事後指導のあり方について考えていきたい。	登校できない期間もあった中、いろいろな工夫をして学力向上に取り組んだことと思われる。学校の教育資産として共有を図り、今後に生かしてほしい。 新学習指導要領では、何ができるようになるかが大事である。社会に出ると数学や国語の教養的知識の重要性は増すばかりであり、しっかりと学んでほしい。 進路指導において、話し合いなど、対話的な時間を設けることも有効であり、活躍する卒業生を招いてワークショップ等を行うことも一案ではないかと考える。	①新しい学習指導要領への移行を控え、主体的対話的で深い学びやICTの活用等、新たに求められている指導法を用いての授業改善について、今後も調査・研究を続ける。また、今年度から始まった、新入試についても再検討を行う。  ②6学年を中心に大学入学共通テスト対策を行う。進路指導課だけでなく、各教科・各学年と協力して迅速に対応する。また、より良い進路指導体制を構築するために、職員会や資料交換など情報交換会の機会を提供する。  ③小論文、面接等で個別指導を希望する生徒へどのように対応するか、課題を検証しつつ、限られた人員で持続可能な指導体制を構築する。  ④前期生が4年に進級する。計画通り指導を進めるとともに、本校が目指す中等教育学校像の確立に向け、課題や改善点を検討する。
	(下位組織レベル) よりよい指導計画や指導方法の工夫・改善。全ての教師集団の協力による組織的な進路指導体制の構築。確かな進路観や職業観の育成。	活動計画 ①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。  ②授業評価を年2回実施する。  ③キャリア形成と進路に関する学年集会や講演会、及び大学講師等による出張講義を実施する。  ④学習実態調査と進路希望調査を実施する。	活動計画の実施状況 ①中高合同での研究授業・授業研究会を年10回実施した。  ②授業評価を年2回実施した。  ③計画的に学年集会や講演会等を実施した。 ・学年集会(4年4回、5年6回、6年6回) ・進路講演会(4年2回、5年2回、6年2回) ・総合的な学習の時間での外部講師による講演会等  ④学習実態調査(4年5回、5年5回、6年4回)及び各学年とも、年2回の進路希望調査を実施した。			

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針	
		評価指標と活動計画	評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す			総合評価
人権教育の 推進	(全校レベル) すべての教育活動で人権教育の推進を図る。	評価指標 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「生徒は自分を大切に思う心が育っている」と答えた生徒が80%以上。 ○「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒85%(±0p)・保護者88%(+3p)・教職員96%(±0p)。 ○「生徒は自分を大切に思う心が育っている」と答えた生徒86%(+3p)。 ○「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒80%(+8p)・保護者87%(+3p)・教職員92%(+12p)。	総合評価 (評定) <b>A</b>  (所見) すべての評価指標において、目標値以上、対前年度以上を達成することができた。特に、「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」について、生徒と教職員において、大幅に達成度を上げることができた。今後も、生徒の自己肯定感を育むことを土台に、他者を大切に思う心や態度の育成をはじめ、人権感覚の醸成について継続して取り組む必要がある。	人権教育の推進を図ることは、生徒が社会人になった時に役に立つ、大事なことである。これ以上ないところまで評価が上がっており、この状況を継続することを期待する。今までどおり、一人一人の生徒を大切にしてほしい。生徒の自己肯定感については、どの学校でも話題となっている。達成感や社会の中で役に立ったという体験ができるというのではと考える。	①人権資料『じんけん』をさらに活用して、より生徒の実態に対応した人権ホームルーム活動ができるよう、研究協議や事前研修会を充実させる。 ②定期的に実施している学校生活に関するアンケート調査等の結果を活用して生徒の悩みなどを把握し、迅速に対応できる体制を整え、いじめをはじめ人権問題の未然防止と早期発見・対応を実行する。 ③教科、特別活動等すべての教育活動の中で、生徒の課題や配慮すべき事柄への気付きと情報を共有し、生徒の自己肯定感を育むことができるよう留意し、学年会、職員会を定期的に設定する。
	(下位組織レベル) ホームルーム活動や学校行事の充実。	活動計画 ①人権学習ホームルーム活動の研究授業・研究協議、事前研修会を実施する。 ②人権問題意見発表会を実施する。 ③人権問題講演会を実施する。 ④職員研修を校内で年2回、校外で年1回実施する。	活動計画の実施状況 ①各学年で研究授業・研究協議を実施するとともに、毎回、事前研修会を学年別に実施した。 ②全校生徒を対象に人権教育意見発表会を実施した。 ③5年生対象に人権問題講演会を、また4年生対象に「スマホ・ケータイ安全教室」を実施した。 ④中高合同の教職員研修会を校内で年2回実施した。校外での地域研修会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、残念ながら実施できなかった。			
基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。また、いじめを絶対許さない姿勢を示し、いじめの未然防止に努める。	評価指標 ○生徒一人あたりの遅刻回数が、昨年度より減少している。 ○「生徒は挨拶をしている」と答えた生徒・教職員が60%以上。 ○「生徒は服装頭髪について校則を守っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 ○自転車安全カード(警告書)の交付数が、昨年度より減少している。	評価指標による達成度 ○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者80%(±0p)・教職員94%(+4p)。生徒一人あたりの遅刻回数は、昨年度3.1回に対して今年度3.5回であった(ともに2学期末時点)。 ○「生徒は挨拶をしている」と答えた生徒62%(+12p)・教職員50%(+2p)。 ○「生徒は服装頭髪について校則を守っている」と答えた生徒72%(+9p)・保護者92%(±0p)・教職員88%(+4p)。 ○「生徒は交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒67%(+10p)・教職員81%(+11p)。自転車安全カードの交付数は、昨年度19件に対して今年度14件(ともに11月末時点)。	総合評価 (評定) <b>B</b>  (所見) 「基本的な生活習慣の確立や家庭との連携」については、保護者・教職員ともにアンケート結果も良好で、まずは落ち着いた学校生活を送ることができている。「挨拶」や「服装指導」については、評価が低かった。服装指導については、生徒と保護者・教職員の間には差がみられた。校則を遵守することについての生徒の高い意識の表れともとれる。「いじめ防止」については、アンケートを定期的に行い、早期発見・対応に努めた。しかし、アンケート結果に表れない場合もある。授業中や休み時間等の観察や教職員間での情報の共有など徹底し、継続的な取組が必要である。「登下校時の安全、特に自転車通学」については、事故の被害者・加害者にならないようにルールの厳守を指導していく。また、事故に遭遇した時に適切な対応がとれるよう、さらに指導を徹底する必要がある。	社会人として身に付けなければならないコミュニケーション能力は、まずは挨拶を身に付けることから始まる。挨拶に関する項目の目標値・達成値が低いことが気になる。ルールを守ることが社会の信頼性を担保することや、服装や身だしなみはなぜ守る必要があるのかなどをきちんと教えてほしい。いじめにつながるような、スマートフォンの適切な使い方について指導してほしい。 ⑤5分前行動を心がけさせ、時間を厳守させる。多遅刻者には生活習慣の見直しなど家庭と連携して個別指導を行う。	
	(下位組織レベル) 「挨拶の励行」の徹底。服装頭髪指導の徹底。いじめの積極的な認知と対応。交通ルールや交通マナーの遵守に向けての取組推進。	活動計画 ①遅刻者には「遅刻指導票」を提出させる。 ②5のつく日には、朝のあいさつ運動を実施する。 ③服装頭髪検査を定期的に行う。 ④学校生活に関するアンケート(いじめを含む)を年2回実施する。 ⑤毎月交通マナーアップ運動を実施する。	活動計画の実施状況 ①遅刻者は「遅刻指導票」を提出。提出先である教頭による指導のち入室させた。 ②新型コロナウイルス感染症の感染予防対策のためあいさつ運動は中止し、生活委員が自転車置き場での駐輪指導を行った。 ③新型コロナウイルス感染症の感染予防対策のため、学年や全校規模では第4学年で一度実施したのみで、適宜各HRでの実施となった。 ④いじめ問題に関するアンケートを年3回実施。内容について面談での聞き取り、事象に応じて対応した。 ⑤毎月の学校安全の日(20日)には、登校時に教職員による立ち番指導を実施した。			

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針
本県の重要課題を見据えた教育の推進	(全校レベル)	防災教育を徹底するとともに、主権者教育と消費者教育の推進に努める。	評価指標 ○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○防災クラブを組織し、積極的に防災活動に取り組む。(有志での参加者数が5人以上)	評価指標による達成度 ○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒78%(+8p)・保護者82%(+2p)・教職員94%(-4p)。 ○防災クラブとして、44名のクラブ員が積極的に防災活動に取り組んだ。 ○「生徒は授業やホームルーム活動等を通して、政治や選挙への関心や政治的教養が高まっている」と答えた生徒61%(+13p)・教職員73%(+2p)。 ○「生徒は授業や総合的な学習の時間等を通して、『エシカル消費』の意味がわかり、具体例を挙げることができる」と答えた生徒82%(+9p)。 ○「教職員は時間外勤務の縮減を目指し、担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる」と答えた教職員41%(-13p)。	総合評価 (評定) <b>B</b>	①防災教育の課題としては、防災計画や訓練の実施計画をより現実に合わせてものに修正を加えていく必要がある。また、防災クラブの活動を今年度以上に活性化できるように、校外の研修会などに積極的に参加したり、校内活動についても自主的積極的に参加できるように体制を構築していく。 ②主権者教育については、公民科の授業やHR活動、学校行事を中心に、より視点を明確化するとともに、指導内容や方法を改善し、より実効ある取組を推進する。 ③消費者教育については、エシカル消費推進の意識を高める取組を継続し、実践力の向上を図る。 ④教職員の業務改善のため、ICTを活用した業務の効率化を図っていくとともに、積極的な休暇取得を促す。
	(下位組織レベル)	防災意識の高揚と防災への取組の推進。 関連授業や特別活動を通して、主権者意識と消費者意識を高める教育の充実。	○「授業やホームルーム活動等を通して、政治や選挙への関心や政治的教養が高まった」と答えた生徒・教職員が60%以上。 ○「授業や総合的な学習の時間等を通して、『エシカル消費』の意味がわかり、具体例を挙げることができる」と答えた生徒が80%以上。 ○「教職員は時間外勤務の縮減を目指し、担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる」と答えた教職員が60%以上。	活動計画の実施状況 ①防災避難訓練(地震・津波)を6月と10月に実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、青嵐認定こども園や地域の自主防災会の方々との連携については実施できなかった。 ②各学年において、主権者教育についての講話を行った。また、5年生対象に徳島市選挙管理委員会職員を講師に迎え出前授業と模擬投票を行った。 ③城ノ内高校版エシカル消費指標を作成し、文化祭で販売する商品の選定に生かした。エシカル宣言やエシカル報告を貼付するエシカルツリーを設置し、広報に努めた。	(所見) 6月の防災訓練は、教職員の役割の明確化と地震・火災時の基本避難ルートの確認に重点をおいた。11月は応用編という設定で、平常授業時に実施し、通行止め箇所も設置した。いずれも滞りなく実施できたが、細かな点での課題や改善点も見つかったので、来年度の計画に修正を加えたい。 また、本年度は防災士有資格者と有志による防災クラブを立ち上げた。想定以上の人が参加してくれ、活動回数は少ないものの、炊き出し訓練や防災マップ作成に取り組むことができた。次年度は活動の場や回数をもう少し増やしていきたい。 主権者教育については、達成度が生徒・教職員とも指標を上回った。 消費者教育については、文化祭に向けたエシカル商品の調査・研究や、全校生徒を対象としたエシカル消費推進標語コンクールの実施により、達成度が昨年度より向上した。 教職員の業務改善については、昨年度より13ポイント下回った。コロナ対応等による業務負担の増加が影響していると思われる。超過勤務の要因のほとんどが生徒に対する進路指導と部活動指導で簡素化しにくい内容だが、組織で効率化を図る体制を整える必要がある。	
環境教育の推進	(全校レベル)	環境教育への取組を推進し、学習の場にふさわしい環境を整える。	評価指標 ○「生徒は清掃に積極的に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が80%以上。 ○「生徒はゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「生徒は清掃に積極的に取り組んでいる」と答えた生徒79%(+2p)・教職員80%(+3p)。 ○「生徒はゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒71%(+8p)・教職員71%(-9p)。	総合評価 (評定) <b>B</b>	①4月当初に清掃の手順を生徒に丁寧に指示する。また、普段から生徒に清掃の意義を伝えるとともに、主体的に清掃活動に取り組むよう指導する。 ②ゴミの分別や節電・節水については、教職員がこまめにチェックして回り、その都度気付いたことを注意しながら、生徒の意識を改善する働きかけを行う。 ③整美委員や保健委員が発行する「環境・保健新聞」をさらに充実させる。 ④エアコン使用については、必ず窓等を開放し、適切に使用する。
	(下位組織レベル)	清掃への積極的な取組。 ゴミの分別や節電・節水への取組。	活動計画 ①日頃からゴミの分別を推進する。 ②使用水量、使用電力の推移をグラフ化して掲示し、節電・節水への意識を高める。 ③吉野川堤防清掃活動や学校周辺の清掃活動に、年2回以上取り組む。	活動計画の実施状況 ①各クラスの整美委員が中心となってゴミの分別を推進し、教室や職員室、特別教室などすべてのゴミ箱で分別回収の徹底に努めた。 ②電気と水道の使用量をグラフ化してアセンブリホールに掲示し、節電・節水への意識向上に努めた。 ③吉野川堤防清掃及び、学校周辺の掃除を2回実施した。また、除草作業は3密をさけるため実施できなかった。	(所見) 清掃活動については、清掃の時間帯に音楽を流し、「音楽が流れている間は掃除をする」という意識づけが徹底されたこともあり、達成度は昨年度より上昇した。 ゴミの分別については、教室内の分別はほぼ良好であるが、長期休業中や土・日の部活動の後、ペットボトルや昼食の弁当等の処理に問題がみられた。 節電・節水については、特に、エアコンの設定温度(夏は最低25℃以上、冬は最高23℃以下)等に関するルールは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため窓を開放したこともあり、柔軟に対応した。 吉野川堤防清掃等の様子は、整美委員等が「環境・保健新聞」を発行し、生徒への意識づけに貢献した。	

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針	
		評価指標と活動計画	評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す			
特別活動の 活性化	(全校レベル) 学校行事や部活 動を充実させ、学 校全体を活性化す る。	評価指標 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き 生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護 者・教職員が80%以上。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒・保 護者・教職員が70%以上。 ○「委員会活動は活発である」と答えた生 徒・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組 んでいる」と答えた生徒89%(±0p)・保護者88%(-4p)・ 教職員87%(-3p)。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒85%(+8p)・保護 者81%(+1p)・教職員61%(-6p)。 ○「委員会活動は活発である」と答えた生徒64%(± 0p)・教職員72%(-5p)。	総合評価 (評定) <b>B</b>  (所見) 評価指標上の目標は、ほぼ達成できている。 部活動の入部率は、6学年においては低下し たが、4、5学年では増加した。 コロナ禍により学校行事は制限を受けたり中 止する活動が多くあった。ほとんどの生徒が主 体的・積極的に取り組めたが、無念な気持ちは 隠しきれない。 学校行事への評価よりも部活動に対する評 価が低いのは、特に運動部において学習時間 の確保と部活動の両立が難しく感じている生 徒が多いと思われる。 生徒会や委員会等の活動については、「生徒 会新聞」「人権通信」「環境・保健新聞」などの 発刊など、昨年度からの活動を継承した。生徒 会は十分な時間をかけて、文化祭、球技大 会、予備会などの各種行事に積極的に取り組 み、学校の活性化に貢献した。	コロナ禍の影響を強く 受けた中、生徒と先生 方が一致団結して逆境 に立ち向かい、様々な 創意工夫をして努力さ れたことが伺える。 部活動に関しては、現 在の授業時間の編成 や広域から通学してい る状況を考えて、参加 が制限されてしまうの はやむを得ないのでは ないかと考える。	①次年度も新型コロナの感染予 防により活動の制限はあると思わ れる。必要以上に活動内容を中 止にしたり制限することなく、適切 な予防策を講じて最大限生徒の 活動を維持できるよう計画してい く。 ②中等教育学校移行のため学校 行事を一部変更した。今後も微調 整しながら改善を実施していく。 特に城ノ内祭については、これま での内容も踏襲しつつ、生徒の安全 に留意しながら、より自主的で エネルギーが活動的である よう、計画を再確認する。 ②部活動については、各部が効 率のよい練習を工夫し、生徒が部 活動と勉強の両立を図れるよう努 めていく。また、部ごとに年間活動 計画(統一様式)を作成し、ホーム ページに掲載して保護者に周知 する。 ③生徒会活動や委員会活動につ いては、各種の運動・SHRでの呼 びかけ・新聞発行等をさらに充実 させ、生徒が自主的に生き生きと 活動に取り組める場を設ける。
	(下位組織レベル) 学校行事の内容 の充実。 部活動の活性化。 部活動と勉強の両 立。	活動計画 ①学校行事は生徒が主体的に運営に携わ れるよう実施する。  ②部活動が活性化するよう広報やPRに努 力する。  ③部活動の効率化や考査前の活動自粛な ど、部活動と勉強の両立体制を確立する。  ④生徒会委員会活動を活発化させる。委員 会活動の計画や反省ができるような時間を 設ける。	活動計画の実施状況 ①文化祭、体育祭、球技大会などの学校行事は、コ ロナ禍で活動に制限せざるを得ない場合が多かったが、 なんとか生徒会主体に運営され、生徒も積極的に参加 した。 ②部活動加入率は4年生66(昨年83)%、5年生74(昨年 79)%、6年生83(昨年84)%であった[4月現在]。 ③全部活動で、考査期間中の活動を届出制とし、試合 等が近い部に限り原則1時間以内という制約を設けて 実施した。コロナ禍で大会の中止が多く発生し、活動が 十分できなくて、生徒は不完全燃焼であったと思われ る。 ④各委員は生徒会委員会活動のもと活動し、校内の行 事、環境作り、広報活動などに役割を果たした。昨年度 委員会活動が増え、今年度はそれらを踏襲した。			
開かれた学 校づくりの推 進と郷土愛 を育む教育 の推進	(全校レベル) ホームページを充 実し、学校を公開 する機会をつくる。 また、地域資源を 生かした多様な体 験・交流活動を行 う。	評価指標 ○「ホームページは本校を理解してもらうの に役立っている」と答えた保護者が80%以 上。 ○「学校公開の日、文化祭の公開は、本校 を理解してもらうのに効果的である」と答え た保護者・教職員が80%以上。 ○「ゴルフ研修など地域資源を生かした多 様な体験・交流活動が計画されている」と答 えた生徒・保護者・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立って いる」と答えた保護者80%(-5p)。 ○今年度は、感染症拡大防止のため、学校公開の日を 設定しておらず、文化祭も公開していない。  ○「ゴルフ研修など地域資源を生かした多様な体験・交 流活動が計画されている」と答えた生徒66%(-17p)・保 護者70%(-15p)・教職員73%(-14p)。	総合評価 (評定) <b>B</b>  (所見) 今年度は、コロナ禍の状況を鑑み、学校公開 の日を設定せず、文化祭も非公開とした。ま た、地域に根ざした体験活動や外部人材・機関 との交流活動も制限せざるを得なかった。 そのような中で本校の教育活動を理解いた だくために、ホームページが大きな役割を担っ た。今年度、中等教育学校版にリニューアル し、内容が充実したことにより、年間アクセス数 も昨年度より9%の増加となった。しかし、保護 者の満足度は、評価指標に達してはいるもの の、昨年度より5p減少した。保護者の期待に応 えられるよう、さらに活発な情報発信をしていく 必要がある。 また、スクールガイドも前期課程と高校の内容 を統合した中等教育学校版を新たに作成し た。コロナ禍により制限があるが、中等教育学 校としての特色ある教育活動をあらゆる機会を 通じて発信していかなければならない。	ホームページのアク セス数の増加は、イン ターネットを通じて情報 を得ようとしている社会 の変化の表れであり、 特にコロナ禍により加 速している。 まさにホームページは 情報公開の中核であ り、新しいホームペー ジで積極的に情報を提供 すれば、保護者の理解 や社会からの正当な評 価を得られると思う。学 校行事や部活動の活 動状況など、定期的に 更新し、城ノ内高校の 教育の素晴らしさを積 極的にPRしていただき たい。	①各課及び各部活動に依頼し て、ホームページの記載内容を定 期的に見直してもらうとともに、最 新記事の掲載を促す。また、マス コミなどの取材に積極的に応じ て、学校のPRに努める。 ②学校公開の日、文化祭等、本 校の教育活動を直接理解してもら える行事について、可能な範囲で 公開できるよう、開催方法や内容 を工夫し、充実を図る。 ③ゴルフ研修等、地域に根ざした 体験的活動は、本校の生徒に とって貴重な行事である。次年度 は、後期課程の開始に伴い、4年 生での新しい行事を企画してい る。充実したものとなるよう、検討 を重ねていきたい。
	(下位組織レベル) ホームページ等 を通じた情報発信 の充実。 学校公開の日、文 化祭の公開など学 校公開の機会の 充実。 地域に根ざした体 験活動・行事の実 施。 学習成果の発表、 外部の人材や教 育機関等との交流 機会の充実。	活動計画 ①ホームページの更新にすべての教員が 関わり、週2回以上更新する。  ②スクールガイドを充実させる。  ③ゴルフ研修など地域資源を生かした多様 な行事を実施する。	活動計画の実施状況 ①ホームページを中等教育学校版に新たに作り直し、 年間アクセス数は884,728回[2月現在]であった。昨年の 同時期が811,262回であり、約9%の増加となった。 ②前期課程と高校の内容を統合させた中等教育学校 のスクールガイドを作成した。 ③コロナ禍で多くの学校行事を中止せざるを得ない中 にあって、ゴルフ研修は実施することができた。			